

No1 8月開催研修

開催場所

和歌山県田辺市

参加者

21名 職種：介護職13名 看護師3名 その他5名

サポーター

4名

研修参加者のコメントの一部

- 実際に介護を受ける側にならないと分からない事ばかりで、「目からウロコ」な事もありました。
- 角度を上下した後の体幹の変化、圧のかかり具合の解消も、介助者や見学者から見るとあまり変化が分からない事も、される側になると劇的に変わることを意識していきたい。

研修の成果・感想

参加者から体験学習の効果と思われる意見や、食事時のポジショニングの重要性を感じる意見が多く聴かれた。研修効果が得られたと感じた。定期的に同サポーターで研修を開催している。事前練習や打ち合わせを行っているが、回数を重ねていることでサポーターの指導やスキルに安定感がでていた。研修中、実技を行う中で、参加者から普段の食事介助の素朴な疑問も聞くことができた。参加者のほとんどが介護職であり、POTTのような食事介助の基本の浸透ができておらず、継続した基礎研修の開催の必要性を感じた。



ちょっと一言

研修場所に偶然、自衛隊の水陸両用車が展示。すごく大きくてびっくり。皆で興奮しました。



研修は毎年1月か2月に開催していましたが、インフルエンザの影響を避けるために夏場の開催に変更しました。田辺市の夏と言えば、このかき氷(上記写真左端)。安くて美味しいので県外からも食べに来られます！田辺市に来られた際には是非！

No2 9月開催研修

開催場所

和歌山県田辺市(研修依頼病院で開催)

参加者

約 50 名 職種：看護師 介護職 その他

研修の成果・感想

研修時間の設定があり、参加者の実技(体験学習)の実施はできなかったが、POTT スキルに沿ってデモンストラーションを行った。施設では、実技を含む研修スタイルがはじめてであり、研修中、興味深く聴講されていた。研修開催後、参加者から高評価を得ることができた。実技を含む研修の重要性を再確認できた。次回は、参加者の実技を含む研修開催を課題としたい。

自地域の看護研究発表会で、POTT 研修の効果について発表を行った所、この施設での研修開催に繋がった。近隣施設での研修開催は今後、地域全体で食事介助スキル向上の一助に繋がりと、食事に関しての顔が見える関係づくりにも繋がるのではないかと感じた。今後も近隣施設での開催が行えるような活動をしていく必要を感じた。

No3 11月開催研修

開催場所

和歌山県岩出市(研修依頼病院で開催)

参加者

29 名 職種：看護師 介護職 その他

研修参加者のコメントの一部

- スキルチェックシートを用いて、日ごろの食事介助に役立てたい
- 足底をしっかりとつけることで飲み込みやすくなることがわかって、これから行っていく
- 業務的に食事介助、ポジショニングをするのではなく、患者さんそれぞれに合ったアプローチが重要であることを学び、日々の業務に取り入れたい

研修の成果・感想

以前にも研修を行った施設での実施だった。はじめて受講された参加者もいたが、研修内容のステップアップや変更の検討も必要と感じた。研修の効果として患者への影響などを検討する必要があると感じた。

No4 11月開催研修

開催場所

和歌山県海南市

参加者

56 名 職種：看護師

サポーター

5 名

研修参加者のコメントの一部

- 演習で身をもって安楽な姿勢を体験でき、病床でも取り入れたいと思った
- NSだけでなく助手さんと病棟全体でこういった取りくみをしたかった
- 患者体験をして、違和感や不快感ばかりでしたが今回研修で学んだことを生かせるよう病棟でとりくんでいきたい」などの意見が聞かれた

研修の成果・感想

参加者が多いため、事前に実技に関して検討を行った。前年度の反省を活かして実技は異なる配置を設定した。参加者のグループ数を多くし、ベッドや車いすの実技終了後に振り返るゾーンを設定した。研修中に POTT スキルの実技を行い、動画を見ながら振り返る機会を作った。研修内で実技と振り返りを行えたことで、参加者からは研修に対して満足した意見がほとんどで、充実した研修に繋がったと考える。研修前に研修企画を十分に話し合うことの重要性を再認識した。